

Life Design Focus

未婚化は止まったか

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 松田茂樹

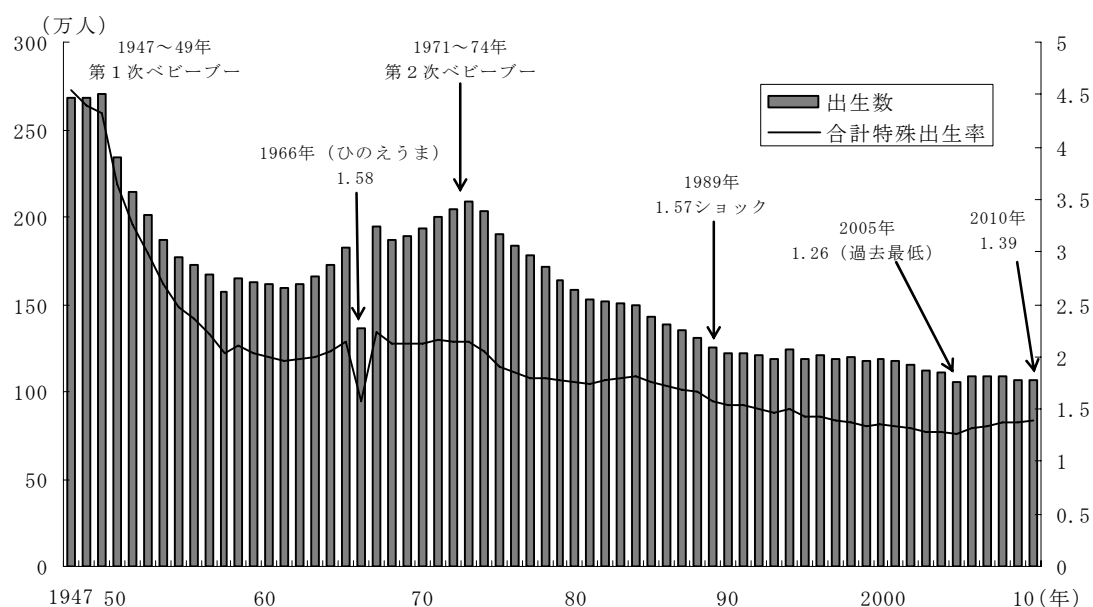
<出生率上昇>

2010年の合計特殊出生率（以下「出生率」）は1.39で、前年の1.37よりも0.02ポイント上がった（図表1）。下がり続けていた出生率は2005年の1.26を底に、緩やかに上昇してきている。1980年代半ば以降、わが国の出生率は一時の微増を除き、下がり続けてきた。子どもを産む年齢にあたる女性人口が減少しているため、出生率が上昇しても、出生数は減少傾向にあるものの、5年連続で出生率が上昇したことは、少子化が問題視されて以降で初めてのことであり、明るい話題といえる。

近年の出生率上昇は、団塊ジュニアを含む若い世代において先送りされてきた出産のリバウンドや婚活ブームによる結婚・出産意欲の高まりなどの理由によってもたらされた。また、これまでの少子化対策の効果がようやく出始めたとも考えられる。

それでは、この出生率の上昇傾向は、今後も続くだろうか。その動向を占うには、出生率に深く関係する未婚率の推移をみる必要がある。

図表1 出生数と合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

＜未婚率の上昇は緩和したが＞

わが国の出生率の水準は、おおむね「未婚率」と「結婚した夫婦における出産数」によって決まる。1970年代半ば以降の出生率については、未婚化が大きな要因である。未婚化の傾向が反転しなければ、出生率が本格的に回復基調にのることは難しい。

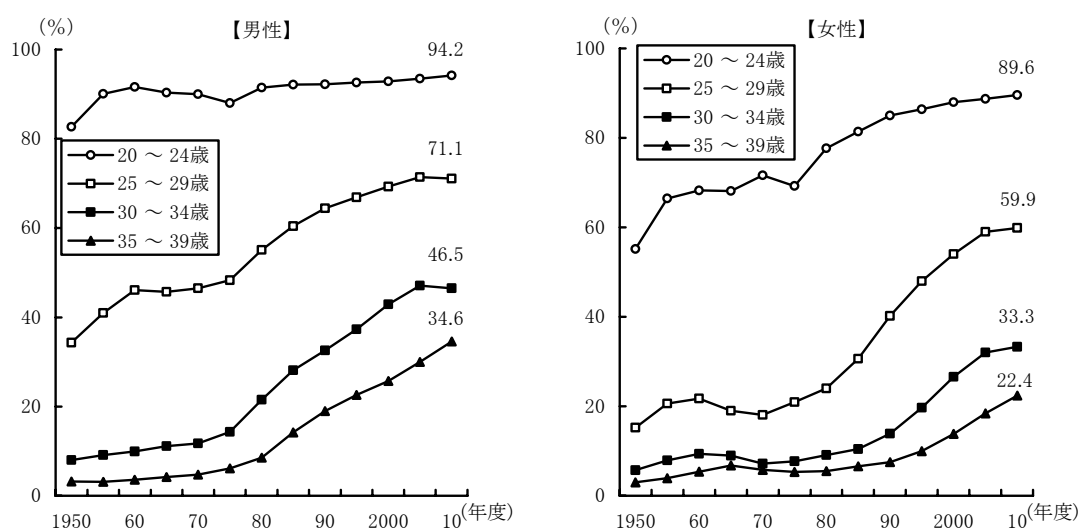
性・年齢別にみた未婚率の推移が図表2である。男性の場合、20代前半の未婚率は昔から高かったが、70年代以降に20代後半以降の未婚率が急上昇した。2010年時点においては、20代前半の男性の大半、20代後半の男性の約7割が未婚である。30代後半においても、3人に1人の男性は未婚である。

女性の場合、男性よりも遅く、80年代以降に20代における未婚率が上昇し、90年代以降は30代の未婚率も上昇した。女性の未婚率の水準は男性のそれよりも低いものの、2010年時点では30代前半の女性の3人に1人は未婚である。

上昇してきた未婚率であるが、2005年から2010年にかけて上昇傾向が緩和し、一部の年齢層では僅かに減った。具体的みると、男性においては、過去5年間に20代後半の未婚率は0.3ポイント、30代前半のそれは0.6ポイント減少している。女性についてみると、2005年から2010年における未婚率の上昇幅は、20代後半と30代前半が1ポイント前後とそれまでの傾向よりも減速した。未婚化は一段落しつつある兆しがみえる。

ただし、まだ未婚化が完全に止まったといえない。2010年には、男女とも30代後半における未婚率は過去最高まで上昇している。各年齢層における未婚率が現在の水準で高止まりしたままでは、今後の出生率回復の足かせになる。

図表2 性・年齢別にみた未婚率の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」

＜若いうちのカップル形成が遅い日本＞

未婚化の進行が出生率低下をもたらしているわが国であるが、他国と比較するとどのような特徴がみられるだろうか。図表3は、日本を含む諸外国の出生率と結婚・同棲経験率である。出生率は、日本と韓国が低く、アメリカ、フランス、スウェーデンは高い。

欧米の場合、結婚ではなく、同棲をするカップルも多い。フランスとスウェーデンでは、同棲する者に対しても法的な権利を与えている。このため、日韓と欧米を比較する場合、同棲者が含まれない未婚率ではなく、結婚と同棲を合わせた経験率を比較する必要がある。日本の場合、同棲している者は極めて少ないため、結婚・同棲経験率はほぼ結婚経験率と同義である。

性・年代別にみると、40代における結婚・同棲経験率は、日本は出生率の高い欧米3カ国よりも低いわけではない。特に40代の女性を比べると、日本女性の結婚・同棲経験率は欧米3カ国よりも高い。30代においても、日本女性の結婚・同棲経験率はアメリカよりも高い。

日本の結婚・同棲経験率が欧米3カ国よりも顕著に低いのは20代なのである。その割合を比較すると、男性20代では、日本は19.3%に過ぎないのに対して、アメリカとスウェーデンは3割台半ば、フランスは4割台半ばである。同じく女性20代では、日本は3割台半ばであるのに対して、欧米3カ国は5～6割と高い。出生率が高い先進国と比較した場合、日本の未婚化の特徴は、若いうちのカップル形成が遅いことにあるといえる。ちなみに、日本よりも出生率が低い韓国も、若いうちの結婚・同棲経験率が低いという同じ特徴がある。

図表3 諸外国の結婚・同棲経験率(性・年齢別)

		日本	韓国	アメリカ	フランス	スウェーデン
		(2010)	(2008)	(2006)	(2008)	(2008)
合計特殊出生率		1.39	1.19	2.1	2.02	1.91
結婚・同棲経験がある者の割合(%)						
男性	20代	19.3	10.4	36.5	45.8	35.0
	30代	68.0	59.0	76.5	77.9	81.7
	40代	80.5	90.1	87.4	81.1	83.7
女性	20代	35.5	27.1	53.4	63.7	60.8
	30代	80.8	88.6	75.3	83.9	87.2
	40代	93.0	96.1	90.3	87.0	83.3

資料：内閣府『平成22年版子ども・子育て白書』(2010)、内閣府『少子化社会に関する国際意識調査報告書』(2011)

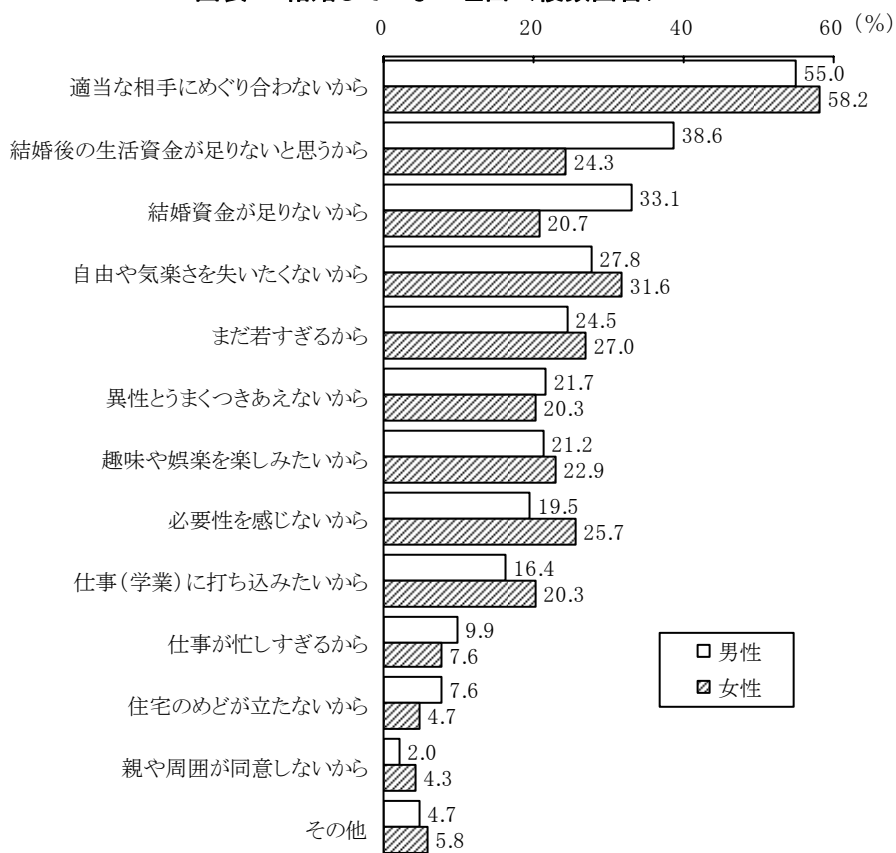
＜出会いの不足と経済的問題＞

それでは、わが国の若者たちが結婚していない理由は何であろうか。20～30代の未婚男女が結婚していない理由が図表4である。最も多くあげられた理由は、男女とも

「適当な相手にめぐり合わないから」である。第2位以下は男女で差があり、男性では「結婚後の生活資金が足りないと思うから」「結婚資金が足りないから」が多く、女性では「自由や気楽さを失いたくないから」「まだ若すぎるから」「必要性を感じないから」という理由が多い。このうち、主体的に結婚をしないというものについては、本人の自由の問題である。少子化対策として注目すべきは、出会いがないという点と結婚生活を送るための経済的基盤の弱さである。

わが国は90年代以降少子化対策を行ってきたが、それはもっぱら出産・育児に対する支援であった。結婚するかしないかは極めて私的な問題であるため、国もそこに対する政策を躊躇してきた。しかし、一見すると結婚するかしないかは私的な問題にみえるが、経済的基盤の弱さが結婚難に結びついていることは社会の側の問題であり、また実は出会いの場が少ないことも正規雇用者の長時間労働や人と人の交流が希薄化しているといった社会的問題に深く関わっている。この意味で、希望する者が結婚することが可能な条件を整えることは、国や自治体の政策課題である。出生率を回復軌道にのせて少子化を克服するためには、希望する者が若いうちからも結婚生活を送ることができるようにして未婚率を下げるのが次の重要な政策課題である。

図表4 結婚していない理由＜複数回答＞



資料：内閣府『結婚・家族形成に関する調査報告書』（2011）。

（まつだしげき 主任研究員）